

議員提出議案第7号

イスラエルとパレスチナの持続的な休戦と人道支援を求める決議

上記の議案を別紙のとおり会議規則第14条の規定により提出します。

令和5年(2023年)12月18日

提出者 八王子市議会議員 森 喜彦

賛成者 八王子市議会議員 浜野 正太

同 九鬼 ともみ

同 安藤 修三

同 小林 裕恵

同 石井 宏和

同 鈴木 勇次

八王子市議会議長

鈴木 玲央 殿

イスラエルとパレスチナの持続的な休戦と人道支援を求める決議

イスラエル領内のパレスチナ自治区は、1993年のオスロ合意をもとに、暫定的な領域で自治を進めてきたが、特にガザ地区は周囲を壁に囲まれ、物資や人の出入りもイスラエル側に封鎖されることで、生活に困難を来してきた。

こうした中、本年10月7日、イスラム組織ハマス軍によるイスラエル市民への襲撃と200名以上の拉致事件が起きた。それを受けて、イスラエル軍によるガザ地区への軍事侵攻が行われ、病院や難民キャンプなどまで攻撃され、女性や子ども、国連の職員やジャーナリストを含めて、これまでに1万5千人以上が殺害されている。

国際連合は、10月27日の国連総会緊急特別会合で、「民間人の保護と法的・人道的義務の遵守」決議を121カ国の賛成で採択し、即時、永続可能かつ持続的な人道的休戦や、不法に拘束されている全ての民間人の即時かつ無条件の釈放などを求めている。

また、国連安全保障理事会は11月15日、戦闘の緊急かつ人道的な中断を求める決議を採択し、人道支援物資を届けるため、十分な日数の戦闘中断と人道回廊の設置などを要請した。

これらの決議も受け、11月22日に一時的な戦闘の中断が合意され、お互いの人質と囚人の解放が進められたが、12月1日から戦闘が再開され、無辜の命が奪われている。解放されず拘禁されたままの市民も多く、特にイスラエル側には行政拘禁を含めて7,000名以上のパレスチナ人が囚われていると報告されている。

よって、八王子市議会は、国際人道法に反する病院や市民への攻撃を厳しく非難するとともに、これ以上罪のない市民の犠牲者を出さないよう、イスラエルとパレスチナの双方が国連総会決議に従って、持続的に休戦し、罪のない市民を解放し、人道的に支援すること、平和的な話し合いのもとに共存することを求めるものである。

以上、決議する。

令和5年（2023年）12月18日

八王子市議会